

平成 29 年度美術館協議会における主な意見・要望とその対応状況

【平成 29 年度美術館協議会(平成 29 年 11 月 29 日開催)】

主な意見要望等	対応状況
<p>館と館との割引制度があればよい。近隣の施設との連携はどうか。</p>	<p>(当日回答)全国美術館に調査したところ、相互割引の例は多く見られた。当館においても、今年度は萬展の開催時に、花巻市の萬鐵五郎記念美術館と相互割引を行った。近隣館とは、近隣施設とのネットワーク組織「もりとびあねっと」を通じてスタンプラリーなどを行っている。</p>
<p>自分は「もりとびあねっと」に携わっており、これを通じて情報発信を行っている。この辺りを訪ねてくる人が、すぐ近くまで来ているのに、案内板がないので目的の施設に辿り着けない来場者が多い。</p> <p>マリオスから歩いてくると、橋を渡ったところで案内板はあるものの、見つけにくいし、見づらいので、そういう苦情が多いのは確かだ。</p> <p>依然として入り口が分かりにくいという声を聞く。案内板に目立つ工夫が欲しい。花森展では県外客が多かったように思う。建物の魅力も大きい。そんな中で、敷地内にある修景池に水がないことが残念であり、復活を望む。ラウンジに座って、水と緑を一度に眺められるのは素晴らしい。</p> <p>美術館の入り口表示は、お金の掛かる方法ばかりでなくとも、既存の地図データに手を加えて分かりやすくするなど、方法はあると思う。</p> <p>盛岡駅には分かりやすい地図や案内板が欲しいところである。なおかつ、大きな字で視認しやすいことも重要である。</p> <p>道路や公園内の案内板は近隣の施設が合同で予算を出し合って、まとめて設置してはどうか。</p>	<p>(当日回答)公園から美術館への入り口の表示の件は我々も承知している。予算ありきの話だが、改善していきたい。公園駐車場については盛岡市と協議して適切に管理していく。修景池は、漏水があつて水を張れない状況。修繕には多額の予算を要する。優先順位をつけて県に要望していきたい。</p> <p>(追加回答)年度末に美術館前の幹線道路交差点(熊さん食堂前)に大型の「表示塔」、そこから美術館前駐車場までの誘導用「建植サイン」、駐車場入口に「駐車場サイン」(既存サインを見やすく変更)、東西玄関に「切文字サイン」、館内入ったところに「館内出入口スタンドサイン」、臨時駐車場で使用する関係者用駐車場に「案内自立サイン」を整備した。</p> <p>併せて各種印刷物に使用している美術館案内地図も、既存データを最新のものに改良を行ったところである。</p> <p>盛岡駅では以前より駅構内観光センターにチラシ、ポスター一等を送付し、東口バスターミナル前の観光案内板にも企画展毎に看板を掲出しているが、拡充も含めて検討していきたい。</p> <p>公園内の案内板も既存のものが老朽化してきているので、引き続き「もりとびあねっと」と連携して検討していきたい。</p>
<p>エリック・カール展初日に来館した折、高校生が大勢来場して展覧会を楽しそうに観覧している姿を見た。良い企画であればこそ。高校生対象に何か仕掛けたのか。</p>	<p>(当日回答)普段から学校には展覧会のラインナップを情報提供している。秋は学校団体利用が多い時期であり、エリック・カール展では幼稚園の来場も多く見受けられる。</p>
<p>案内マップ的なものは、修学旅行などの用途に活用できるよう、「もりとびあねっと」の中で、共同で作成してはどうか。</p>	<p>(追加回答)平成 27 年度に「もりとびあねっと」加盟 6 館で「ようこそ杜のミュージアムへ-MUSEUM GUIDE-」という 6 つ折りのガイドマップを発行しており、当館入口でも配布している。</p>
<p>企画展ラインナップはどのように決められるのか。</p>	<p>(当日回答)新聞社や企画会社、他美術館等から展覧会企画について、情報提供やオファーが寄せられる。また、通常は岩手の作家を取り上げた自主企画展も作り込んでいる。展覧</p>

	<p>会の内容、開催時期、経費、ラインナップのバランスを見ながら、館長以下で協議し、選択して決定している。数年かかることもある。</p>
<p>Twitter の活用について、若い世代は Twitter や LINE を頻繁に活用している。先ほど来、話題になっている美術館へのアクセスについても、即効性のあるやり方があるはずだ。美術館の HP や SNS で、くだけたブログなど、柔らかいバランスの取れたコンテンツがあると、若年層が親しみを持って来て、来館促進につながるのではないかと。</p>	<p>(追加回答) SNS での広報については、昨年度から取り組み始めた企画として、開催中の企画展に関連した「フォトスポット」を設置し、来館者が SNS を利用して情報拡散することによる PR 強化を促進しているところであり、更に効果の見込める活用方法等について検討していきたい。</p>
<p>常設展の漆の特集で、古関六平氏の作品と併せて、勝正弘氏の作品が展示されているのはよかった。勝正弘氏の作品を展示したギャラリーが9月に出身地の葛巻町にオープンした。漆の材料、技法について日本工芸界を牽引した人なので、是非、作家本人が元気なうちにお話を聞いておくべき。埼玉県在住で89歳になられる。</p> <p>勝正弘さんのような人の業績がもっと知られるように、美術館にも是非、調査研究をお願いしたい。</p>	<p>(追加回答) 岩手県の工芸において、鍍金と並んで漆芸は県の産業振興とも結びつきが強く、当館としても研究を深めていくべき分野と認識している。収蔵作家の古関六平氏および勝正弘氏の仕事については、今後も調査研究を継続していく。</p>
<p>今の高校生は広範囲に興味を持っているようなので、春先のウキウキ感の季節に好奇心旺盛な年代を対象とした美術館まつりのようなイベントも必要ではないかと思う。</p>	<p>(追加回答) 7月下旬に「美²フェス 2018」という企画展に関連付けをした全館イベントを開催したが、若年層に対してのアピールが少ない部分もあったことから、企画展のラインナップやイベント内容等も含めて訴求力のあるものを検討していきたい。</p>
<p>平成30年度の企画展を見ると、前半は難しい展覧会が続くが、スタンプラリーの導入など、子どもを対象としたイベント等の開催を計画してほしい。</p> <p>子どもたちが沢山来られるようなイベントを年間一つは開催してほしい。また、観覧料無料の日を単発でも良いから実施するなど、一度でも美術館に来る機会を与えてほしい。さらに、高齢者対応として言われているのは、講演会などでも聞き取りにくいという話をよく聞くので、音声・音量にも留意してほしい。</p> <p>子どもたちの来館については、親子パスポートの導入が有効的であると考えている。</p>	<p>(当日回答) アンケート調査から観覧者を年代別に見ると、10代・20代が非常に少ない。30代から60代が多く、かつリピーターが多い。美術館に若い年代の目を向けさせることができるかということが課題となっている。また、その若い世代が美術館に来ない理由は、「お金がない・時間がない・きっかけがない」ということのようなのである。したがって、きっかけを作ってあげればと考えている。子どもは親と来ると思うので、ファミリー向けの展覧会の開催は常に考えている。</p> <p>(追加回答) 講演会での音声の聞きやすさという点で、平成29年3月に音響機器を更新し、その後複数回調整作業を実施した結果、クレームも以前と比べて少なくなったと感じているが、オペレーション部分も含めて今後も注意していきたい。</p> <p>親子パスポートも含め、他美術館への動向調査の結果によると、様々な特典を実施しており、前向きに検討することとしたい。</p>